

アメリカとフィリピンの クリスマスプレゼント！



世界中の子どもたちが待ちわびているクリスマスの準備が始まります。今回は、アメリカとフィリピンの子どもへのプレゼントを募集します。

メトロの関わる子どもたちにとって、自分のためにきれいに包装された、自分のためのプレゼントをもらえる機会はほとんどありません。

どうかこの機会を用いてあなたのご支援くださっている子どもたちに、イエス・キリストの愛を形にしたプレゼントを贈ってあげてください。

また、クリスマスのメッセージを語る週にメトロの教会学校に参加した子どもたちには、スポンサーがいるかどうかに関

係なく、全員に小さなプレゼントを渡す、オペレーション・ホリデー・ホープという活動をしています。たとえ小さくても子どもたちにとっては、プレゼントをもらうのは大きな喜びです。

この働きは、メトロにとっても大きなチャレンジの時です。子どもたちが、クリスマスのメッセージを聞いてイエス様が、神様から自分に与えられた愛のプレゼントであることを知り、それを実際にクリスマスプレゼントという目に見える形として受け取ることは、とても大きな意味があります。

プレゼントの内容などの詳細は、同封の申込用紙をご確認ください。
ネットやメール、お電話、FAXでお申し込みを受け付けています。

サイトからは、<https://metroworldchild.jp/ohh-usph-ch/>

QRコードでのお申込はこちらから⇒



締切

フィリピン

11月10日(日)

アメリカ

11月25日(月)

常時スポンサー募集中！

お申込はこちらから⇒

<https://metroworldchild.jp/apply-for-sponsor/>



今月の引き落とし日！

10月28日(月)です。口座をご確認ください！

今月号の目次

P2～4…ビル師からのメッセージ／インターンシップ受付／祈りの輪

P5…各国の状況とご報告

P4…日本事務所から大切なお知らせ

ビル師からのメッセージ

100万人が限りなく現実に

私は、9月中旬にはヨーロッパからアフリカに向かいました。私たちのために祈ってくださっている皆さんに、そしてすでに寄せられている励ましとご支援に感謝します。

ご存知の通り、戦いはまったく終わりませんが、最前線にいるスタッフの献身的な働きと同様に、背後にいる皆さんの一貫した支援が、勝利を得るためには重要です。

メトロは、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、そしてもちろん世界中の子どもたちのために戦ってきました。

今の時代は、ソーシャルメディアから簡単に飛び込んでくる愚かな情報と、アメリカの公立学校で教えられている歪んだ価値観、そして若者の命を破壊しようとする巷の悪意によって危険な状況に陥っています。あなたも私もそれを知っています。

メトロでは、私たち全員がより大きな声で発信することを決意しました。都会の喧騒や戦争、世界中のあらゆる愚かさよりもはるかに大きな声で。過去56年間にわたる宣教活動を通して、私とメトロのチームは、その方法を築き上げてきました。世界中の多くの人々が、毎日それを耳にしています。

9月初めのメトロの教会学校には734,144人の子どもたちが



出席し、9月最終週には、80万人を超えました。私たちが1週に100万人という目標に向かって進むにつれて、その勢いは世界中で加速しています。そして、多くの人が、もし彼らが毎週100万人に福音を伝えられるなら、なぜ私たちにできないのか、と言っています。イエスの名において、できます。なぜなら、私たちに力を与えてくださるキリストによって、私たちに実際はすべてのことができるからです。すべてのことが。

過去はすでに歴史です。未来はわかりません。しかし、私たちに現在が与えられています。あなたがどんな状況の中に住んでいようと、勝利を勝ち取るためにあなたもその一翼を担ってくださいありがとうございます。私たちは戦い続け、目標に向かって進み続けます。

ビル・ウィルソン

インターンシップ受付中！

スタッフと共に現場でメトロの教会学校の貴重な体験と学びをすることができます。

参加資格

18歳以上の方で、すでに教会で奉仕をしている、熱心なクリスチャンや献身者。健康であること。

語学力

日常会話以上の英語の語学能力とコミュニケーション能力が要求されます。

日本人のお申し込みの場合は、事前に英語での面接をしていただき、英語力を確認させていただきます。

日常会話程度の英語力の方には、フィリピンでの研修をおすすめします。



開催場所と2025年度日程

アメリカ・ニューヨーク

前期：3月11日～6月12日

後期：8月26日～12月18日

フィリピン・マニラ

前期：1月28日～3月10日

後期：8月26日～12月6日

ケニア・ナクル

前期：1月4日～4月4日

後期：4月26日～7月6日

費用

基本的にインターンシップは無料です。

しかし、滞在に必要な諸費用や小遣いなどで10万円程度の準備は必要になります。参加国によっても必要な経費は変わりますので、お申込み後にお知らせします。

お申込み方法

下記のWebsiteまたは、左のQRコードより
<https://metroworldchild.jp/applytraining/>

ビル師からのメッセージ

ガザからの連絡

9月15日?の日曜日、私は、南アフリカのヨハネスブルグで最初の日曜朝の礼拝を終えたばかりで、牧師として働き始めてから最も長い3か月のツアーの真っ最中でしたが、元気に終えようとしていました。

アフリカへの扉は信じられないほど急速に開かれ、各国政府からの、メトロの教会学校を自国で開催してほしいという要求が続いているため、彼らの要求を満たすために必要な支援を集めるために現地に留まらなければなりませんでした。

今までの支援で何が必要かはわかっていたのですが、ここまで来ようと思って来たわけではありません。しかし、それはまた別の機会にお話ししましょう。

子どもたちにスポンサーを募り、本にサインをするために、集会所の後部にあるテーブルまで歩いて行ったところでした。午前中ずっと“ガザ”からの電話を待っていました。そろそろ彼らから連絡が来る頃だと思っていました。ユダヤ人の友人アンドリュウ兄からの連絡で何かが起こったことは知っていましたが、詳細は知りませんでした。

ハン兄のお母さんが殺害されました

私は電話をかけて彼らに連絡しましたが、その地域では、受信状態がかなり悪いのです。ようやくアンドリュウ兄と連絡が取れました。彼によると、ハン兄の母親が昨日ハマスに殺されたというのです。

ハン兄は、戦争が始まったばかりのころにハマスに殺されたアフメド兄の後を継いでメトロの教会学校を継続してくれている人物です。彼の母親は、とても危険な時期に教会学校に来る子どもたちに食事を用意するのを手伝った

人です。そして私が、爆撃で破壊されたビルの暗がりでもアリーを見つけた後、メアリーの世話をしてくれたのも彼女でした。

彼女はメアリーを自分の子どものように世話をすると伝えてくれました。実際、私からの薬が間に合わず、メアリーが感染症で死にそうになった時、病院の待合室の隅でメアリーを一晩中抱きしめていてくれたのも彼女でした。

その前の土曜日、私が彼らの新しい活動の場と決めた“ヨルダン川西岸”にある食料品店で、ハン兄の母親は、ハン兄がガザの教会学校に集まって来る子どもたちに持っていくベビーフードを買おうとしていました。赤ちゃんの多くは食べるものがないのです。

ハン兄は、まだ“ガザ”と“イスラエル”“西岸地域”の国境を出入りできる状況にあります。イスラエル国防軍は、彼がそこで行ってきた善行を知っていたので、彼の入国を許可したのです。

ハン兄の母親が、食料品店で食料を買おうとしていた時、ハマスのテロリスト3人が突然押し入り、パレスチナ人5人を冷酷に射殺しました。そのうちの1人がハン兄の母親だったのです。彼女は、AK-47の銃弾を背中に2発浴び、その場で亡くなりました。彼女は、メトロの教会学校の働き人として、子どもたちの人生に変化をもたらした1人だったのですが、そのことで命を落としたのです。

そして今、ハン兄は、残された7歳の妹の世話をしなければならぬ状況になりました。妹は、彼にとって、たったひとりの家族となりました。私が説教を終えて次の礼拝の準備をするために教会の駐車場に立っていると、アンドリュウ兄から連絡が入り、私に事の次第を説明しようとなりました。ハン兄が泣いているのが聞こえ、アンドリュウ兄がそれを説明しようとしていました。私は、ハン兄が何を言っているのか理解できませんでした…。

何ができるのでしょうか

私は過去56年間の牧師生活で、死と向き合う何千人もの人々を慰めてきました。彼が泣き叫んでいるのが電話越しに聞こえましたが、私には何も言うことができませんでした。痛みを感じました…駐車場で膝をついて、私にできたのは彼と共に泣き叫ぶことだけでした。他に何をすればいいのかわかりませんでした。私に何ができたでしょう。

アンドリュウ兄からもっと情報を得ようとしていました。ハン兄に言えることは何もありませんでした。さて、どうする? 私には答えが見つかりませんでした。誰にもないでしょう。75歳にもなって、正しい答えも、何の答えもないことにうんざりしました。

それ以来、彼はどうすればいいか考えていたのです。そしてもちろん、私にはまだ答えがありません。彼には、彼女



を埋葬する方法がありませんでした。アンドリュー兄は助けようとしていました。以前助けたパレスチナ人の少年たちが、彼に母親を“ヨルダン川西岸”に埋葬するようにすすめました。

しかし彼は、「母はいつも、ここには居場所がないと言っていました。彼女を家に帰してあげなければ。彼女はガザに戻らなければ。そこが彼女の居場所なのだから。」と言いました。

そこは、ガザでの紛争の最中にトラックに轢かれた彼女のもう一人の子どもが埋葬された場所でもあります。また、私が真夜中に見つけ出した小さな女の子、メアリーも、私たちが教会学校を行っている場所に埋葬されています。

この2週間、私たちと話している間、ハン兄は彼女をガザの家に連れて帰りたいと言いつづけていました。彼女は、イエス様と家族を愛していました。当時、私たち全員がメアリーの世話をしようとしていたとき、彼女は何度も「私は神の働き奉仕の一部を担っていると感じ、とても感謝しています」と言っていました。

今、このことを皆さんにお伝えするのは、2週間経ったからです。私たちは、彼女のために棺を用意することができ、ハン兄は、彼女の遺体を包んであげました。この混乱の最中、ハン兄は、「彼女を家に連れて帰りたい。ここは彼女の家ではなかった」と言いつづけていました。

ハン兄の母親は、「天国が私の家だとわかっています」とよく言っていましたし、ハン兄もそれを知っていました。しかし彼は、「母のために私ができる最後のことは、少なくとも彼女をガザの自宅に連れ帰ることです」と言いました。

どうか祈ってください

私はハン兄を助けようとしていますし、アンドリュー兄も

できる限りのことをしてくれたことを知っています。この戦争は10月7日で1年になりますが、先が見えません。私が知りえたことを、これからもお知らせしますが、最近はいつものように、またしても答えが見つかりません。

今私は、フィリピンの空港から台湾に行こうとしています。そこではほぼ毎日集会があります。ニューヨークの自宅に数日間戻りましたが、今、私たちに開かれた扉をくぐり抜けるために、さらに支援を得るために、さらに1か月旅に出ます。

ヨハネスブルグで、あの教会の駐車場にひざまずいていた時、あの電話の後、2回目の礼拝はできないと気づきました。最初の礼拝が終わって出てきた人々が私を見つけた時、私は車を叩きながら叫んでいましたが、その時は彼らに言う言葉がありませんでしたし、今もまだありません。

今、私が皆さんにお願いしたいのは、ハン兄と妹のために祈ってほしい、アンドリュー兄がこの危機的状況に賢明に対処できるように祈ってほしい、ガザで私たちが助けようとしている子どもたちのために祈ってほしい、ということだけです。彼女はだ、ベビーフードを手に入れようとしていただけなのに。

今この時点で、何が正しい答えなのかはわかりませんが、皆さんが気にかけてくださっていると信じています。何度も言ってきたように、本当にありがとう。

ハン兄、アンドリュー兄、そして世界中の子どもたちに奉仕している私たちのチームにとって、皆さんがどれほど大切な存在であるか、皆さんはご存知ないでしょう。ありがとう。もっと良い答えが見つかったらすぐにお知らせします。今は無理です！

ビル・ウィルソン



祈りの輪

あなたの祈りは本当に大きな力になります！ 私たちと一緒に祈りましょう。

- ・世界中の子どもたち、家族、スタッフの健康と安全のために。
- ・食料、住居、親の仕事など、基本的なニーズを神様が満たしてくださるよう。
- ・より多くの子どもたちにイエスの愛と希望が届くよう。
- ・より多くの子どもたちに福音を伝えるためのトラックと機材がもっと与えられますよう。
- ・神様が、ビル牧師に大いなる力を与え、語る言葉に油を注ぎ、安全に守ってくださいますよう。

アーメン！ ありがとうございます。



フィリピンの空の器と 傷ついた魂を満たす

パオロと妹はスラム街で育ちました。何千もの家族が住む巨大なゴミ捨て場です。パオロの母親は、ゴミをあさってリサイクル用のペットボトルを見つけ出し、大きなゴミ袋3つ分で1ドルほど—その晩、家族で食べる少しのお米と醤油を買えるだけのお金を稼いでいます。

このようなスラム街の子どもたちにとって、性的暴行や身体的暴力という、ひどい現実が日常茶飯事です。それが、そこではいかに当たり前のことになっているかを見るたびに心が痛みます。それがこの子どもたちをどれほど傷つけ、その人生を空しいものにしてしまうかは言うまでもありません。

しかし、メトロ日曜学校のトラックがやって来て、荷台の側面が開いて音楽が流れ出すと、子どもたちがあらゆるところから駆け寄ってきます！ 教会学校では、子どもたちは愛され、安全で、笑ったり歌ったりしています。彼らは大切にされていると感じられるのです。彼らは暗闇の中の光であるイエス様のことを聞きます。ほぼ全員が器とスプーンを持って来ます。日曜学校の終わりには、いつも温かい食事を配り、満腹できるように準備しているからです。メトロが空の器に食べ物を満たし、傷ついた魂にイエスの希望を満たすのを手伝ってくださってありがとうございます！

マリアを 偲んで



1962年3月15日-2024年5月25日

30年以上もの間、神の御国のまれに見る美しい魂を持つ人物が私たちと共にいました。それは、マリア・ロベスという人です。

彼女は、ブルックリンのイースト・ニューヨークと呼ばれる最も治安の悪い地域の1つで、宝石のような子どもたちを担当する責任者として用いられていました。彼女は子どもたちを訪問し、若者たちを訓練し、その地域の家族と関係を築き、毎週土曜日には4台分のバスに子どもたちを乗せてメトロの教会学校に連れて来ました。クリスマスが近づくと、子どもたち全員を乗せるために8台分のバスを準備しなければならぬほどでした。

マリアは、周りのすべての人々を受け入れ、歓迎する独自の方法を持っていました。

彼女は主を愛し、主を信じて主に従う4人の子どもを育て、多くの人にとって精神的な母親でした。何よりも、彼女はイエス様の説明ではなく、実際にイエス様を必要としている人々にとって、イエス様となることを望みました。

彼女は癌と診断された後も、笑顔で皆を抱きしめ、祈り、愛し、励まし続けました。数年間、彼女は治療の合間もできる限りメトロの受付係としてがんばってくれました。

私たちは彼女の人生と功績に心から尊敬しています。

マリア、今は神の御手の中でゆっくりと安らぎを得てください。

— ビル・ウィルソン

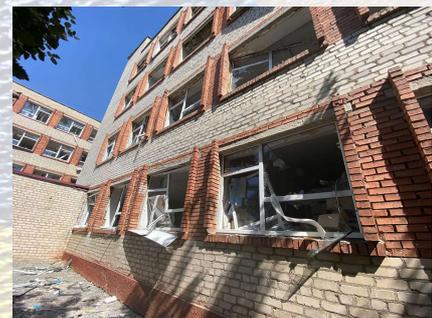
子どもたちの救出作戦再開！（どこなのかはお察しください）



極秘作戦のため、ほとんど詳細をお伝えすることはできませんが、9月初めから、大規模な子ども救出作戦を再開しています。

3チームで構成された共同作戦で、それぞれのチームのスタッフは命がけの作戦を展開しています。ご存知のとおり、戦況は今、急速に再燃しています。皆さんは、これが単なる作戦ではないことをご存知でしょう。またしても生死に関わる状況です。

通信状況やその他の問題で、情報を得るのは困難ですが、お伝えできる情報はできる限りお伝えします。パートナーシップの力こそが、不可能を可能にし、扉を開く力であることを知っています。実際に祈ってくださっている方々に、心からの敬意を表し、感謝しています！



日本事務所からの重要なお知らせとお願い

注意!

偽サイトにご注意を!

ビル師の偽のSNSがたくさん発生しています。騙されて献金を送金されないように、くれぐれもご注意ください。

ビル先生の Facebook は以下の一つだけです。

<https://www.facebook.com/PastorBillWilson>

ビル先生が、直接献金を依頼することはありません。メッセージやその他の方法で、個人的に連絡することや友達申請することはありません。友達リクエストを受け取った場合は、その偽アカウントを Facebook に報告し、ブロックしてください。

メトロの働きやビル先生へのご支援は、必ず日本事務所を通してお送りください。

現在開催中のキャンペーン!

現在行っているキャンペーンは、以下の通りです。同封のお申込用紙をご覧ください。

10月:フィリピンとアメリカのクリスマスプレゼント
11月25日(月)締切

11月:ケニアの就学支援 来月のご案内

また、ご支援いただいています子どもの誕生日の前月には、お知らせの手紙を同封しますので、必ず開封して中をご確認ください。ご自身の状況に合わせてプレゼントをお考えいただければ幸いです。

口座引落手続きをされている方は、翌月のお引き落としに加算することもできますので、お振込みの必要もありません。

お引落日は、お申し込み日の翌月です。



! スポンサー募集中!

メトロの働きは各国で急激に拡大し、サポートの必要な子どもの数は、飛躍的に増えています。新規スポンサーを常時募集していますので、よろしくお願いたします。

コロナや戦争で、貧困地域の状況は悪化し続けており、世界中の物価は急激に上昇しています。メトロの活動している地域では、以前から食事をまともに食べることができない子どもがたくさんいましたが、今はさらに深刻な状況です。私たちは、一人でも多くの子どもにスポンサーを見つけようと手を尽くしています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介ください。

メトロ紹介&申込サイト⇒

<https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/>



日本事務所よりごあいさつ!

ようやく秋らしい日々となり、ほっとしていらっしゃる方も多いと思います。神様の与えてくださったこの秋のすばらしさを満喫できますようにと願います。

能登半島では、またしても大きな自然災害が発生し、現地の皆様を守られますようにお祈りしています。災害支援会の働きもしておりますので、何か必要がございましたらご連絡ください。

メトロの教会学校の働きは、皆様のご支援とお祈りに支えられ、驚く速さで拡大しています。メトロがきちんと機能することさえできれば、今年末には、関わる子どもの数は、100万人に到達するでしょう。人材も資金も機材もすべてが不足していますが、どうぞすべてが神様によって満たされるようにお祈りください。

皆さまの必要も満たされて、健康で幸せな秋の日々となりますようお祈りします。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座5-14-6

橋ビルII 7階 TFC内

電話 03-6264-7370 (松山事務所 089-992-9020)

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン